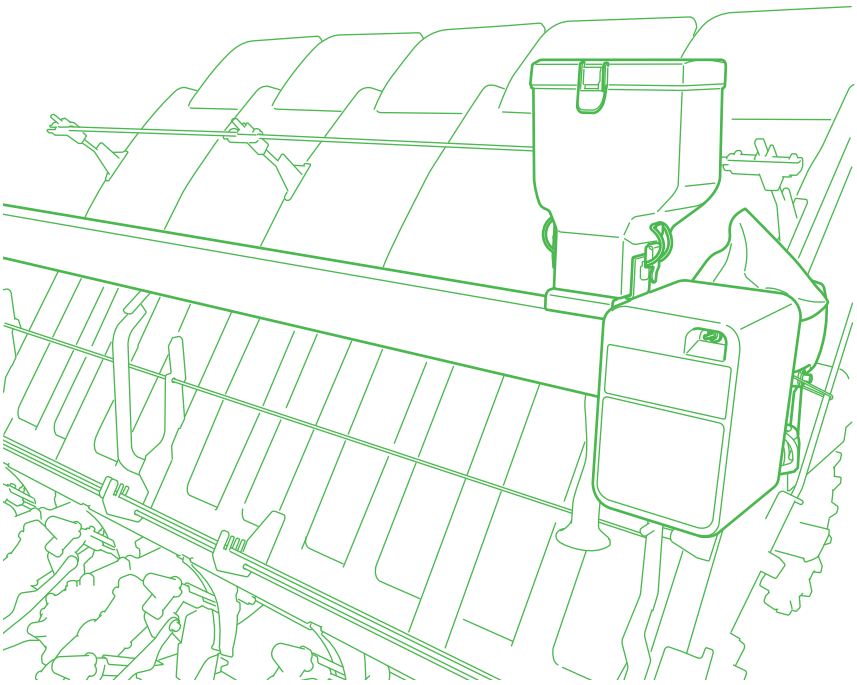
箱施用剤散布機

取扱説明書

HSY40L・MHSY-D5



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは、箱施用剤散布機をお買い上げ頂きありがとうございました。

はじめに

この取扱説明書は本製品の正しい取扱方法、簡単な点検、手入れ方法について説明しています。ご使用前に、この取扱説明書をよくお読み頂き、製品の性能を正しく発揮し、かつ安全で快適な作業をしてください。また次の事項にも御注意ください。

- ●お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。
- ●この製品は、品質や性能向上あるいは安全のために使用部品を変更する事があります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が、機械と一致しない場合がありますので、あらかじめ御了承ください。

尚、この取扱説明書は、箱施用剤散布機に限定して説明していますので、必ず田植機本体の取扱説明書もよく読んでください。更に本製品は田植えと同時に殺菌、殺虫剤を散布する機械ですから、特に下記事項に気をつけてご使用くださいますようお願い致します。

- ●育苗箱施用剤を田植えと同時に散布する防除は、従来の苗箱に散布する防除法と異なります。最寄りの農業改良普及所などの指導機関の方々、或いは、販売店・ＪＡ農協 などとご相談の上、作業を開始してください。
- ●田植機及び本製品の取扱いは、各々の取扱説明書に従い安全で確実な作業をしてください。
- ●本製品のサービスに関するご用命時は、田植機の型式・機番も併せてお知らせ願います。

安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠ 表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ 危険	：注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	：注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	：注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	：注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	：その他、使用上役立つ補足説明を示します。

サービスと保証の規定について

サービスと保証の規定は、田植機の取扱説明書を参照してください。

重要

※改造した場合や、使用目的が異なる場合は、保証の対象外となりますのでご注意ください。

⚠安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で ⚠ 危険 ・⚠ 警告 ・⚠ 注意 ・ 重要 ・ 補足 として そのつど取り上げています。

1. 育苗箱施用剤の取扱について

(1) 使用する育苗箱施用剤のラベルをよく読み、使用方法、使用上の注意をよく知っておいてください。
重要 散布量をまちがえると、薬害が生じるおそれがあります。

(2) 育苗箱施用剤は安全な場所に保管し、運搬するときは、袋が破れないように気を付けてください。

(3) 使用済み育苗箱施用剤の袋は害のないように処理してください。

(4) 育苗箱施用剤の取扱には十分注意し、万一目や口に入ったときは、直ぐに水で洗い流してください。
体調に異常を感じたら直ちに医師の診断を受けてください。

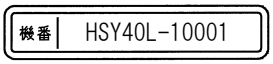
(5) ホッパに残った育苗箱施用剤は、きれいに取り去り、元の容器または、袋に入れて幼児の手の届かない所に保管してください。

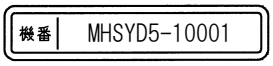
2. 表示ラベルと貼付け位置

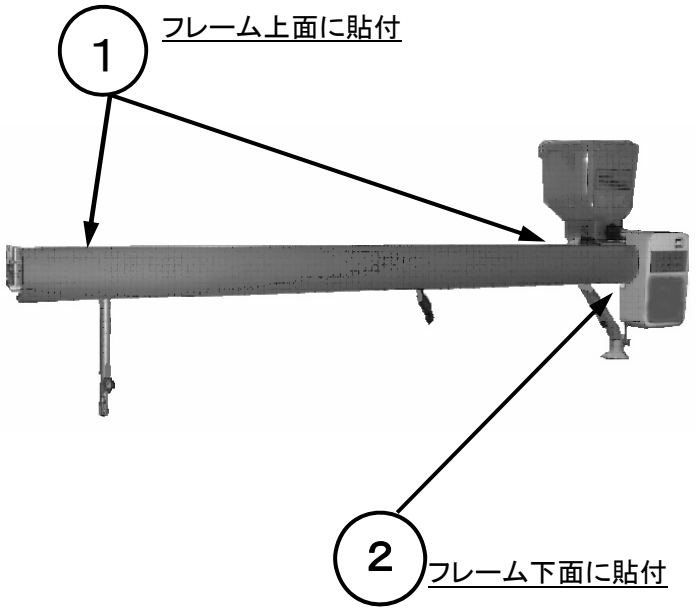
①品番 95720000710
品名 ラベル(ハサマレケイコク)



②HSY40L
MHSY-D5
品名 ラベル(キバン)

HSY40L 

MHSY-D5 



3. 表示ラベルの手入れ

(1) ラベルはいつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もし、ラベルが汚れている場合は石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。

(2) 破損や紛失したラベルは製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。

(3) ラベルが貼り付けされている部品を新部品と交換するときはラベルも同時に交換してください。

(4) 新しいラベルを貼る場合は貼り付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。

目次

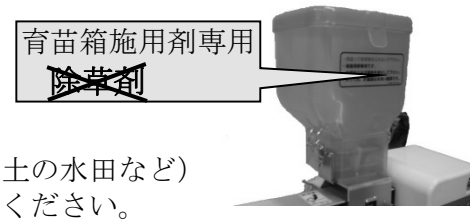
『項目』	ページ
☆育苗箱施用剤を使用する上での注意点・・・・・・	４
☆箱施用剤散布機の特長・・・・・・・・・・・・・	６
☆採用型式と主要諸元・・・・・・・・・・・・・・	６
☆各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・	７
☆作業前の準備Ⅰ（基本動作の確認）・・・・・・・	８
☆作業前の準備Ⅱ（散布量の調整）・・・・・・・・	９
☆散布（田植同時）作業の手順・・・・・・・・・・	１０
☆植付部の左右バランスの点検・調整要領・・・・・	１２
☆【重要】使用する薬剤による注意事項・・・・・・	１３
☆不調と処置・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１４
☆定期点検項目・・・・・・・・・・・・・・・・・	１５
☆主な消耗部品一覧表・・・・・・・・・・・・・・	１６
☆付属部品の交換要領・・・・・・・・・・・・・・	１７

育苗箱施用剤を使用する上での注意点

重 要　取扱いを間違えると薬害にもつながりますので充分理解してください。

１．育苗箱施用剤の選定

１）育苗箱施用剤に限定して使用してください。
　“絶対に除草剤を誤用しないこと”
　除草剤を誤用すると苗枯れの原因になります。



２）田植えと同時に散布できる育苗箱施用剤の中でも、
　圃場条件（ガスが発生した田や、漏水田、黒墨土壌砂壌土の水田など）
　よっては使用できない育苗箱施用剤があるので、御注意ください。

３）育苗箱施用剤の選定にあたっては、圃場や気象の条件が地域によって適正が異なりますので最寄りの指導機関に相談頂くか、都道府県の指導方針に従ってください。

４）箱施用剤散布機での散布に適した育苗箱施用剤を御使用ください。

「適合性の基準」硬く、崩れにくく、吸湿しにくい**育苗箱施用剤**

２．一般的な注意事項（苗・圃場の設定など）

１）健苗を使用し、軟弱苗などは避けてください。
２）田面を均平に整地し、田面が水面上に出ている所を無くしてください。
３）圃場表面は硬くなり過ぎないようにしてください。
　（泥を指でかいてみて跡が少しふさがる程度が適当です）
４）浮き苗、浅植えにならないように適正な植付け深さを守ってください。
５）処理苗を水田に移植した後は、そのまま湛水状態（湛水深３～５ｃｍ）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理してください。
　また、水を落とさないよう漏水に注意し、掛け流しは避けてください。

６）稲苗の葉が濡れていると、育苗箱施用剤が付着し薬害を生じる場合があるので、散布直前のかん水は避けてください。
　もし苗が乾いた場合には、苗の根元に水を掛けてください。



植付前に苗に水を掛ける場合は、苗の根元に掛けて、葉はできるだけ濡らさないようにする。

７）残り苗を圃場に残す場合は、育苗箱施用剤を散布していない苗があると、病気や害虫発生の原因になる可能性があります。
　圃場に苗を入れる時は育苗箱施用剤を先に散布してください。
８）苗の草丈が長いと、葉がチェーンに引掛りチェーンの作動不良の原因になる場合があります。又、葉が苗開き棒に引掛り田植機の植付け爪で苗をかき取れなくなる場合があります。このような場合には、苗の先端を切り落として草丈を短くしてから使用してください。

３．散布後の処理

適正な育苗箱施用剤を使用して適正に散布しても、その後の管理によっては薬害が出る可能性があります。育苗箱施用剤の袋に記載されている水田の管理事項は必ずお守りください。

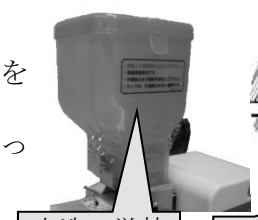
４．植付部のバランスに関する注意事項

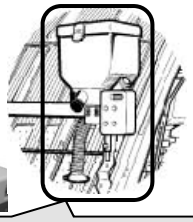
箱施用剤散布機を装着すると、植付部のバランスが少し右下がりになる場合があります。
装着後は、Ｐ１２を参照してバランスの点検・調整を確認してください。

５．散布機の重要取扱い事項

操作要領の各ページの手順、注意事項をよく読み安全作業を心がけてください。
特に次の項目は大きなトラブルにつながりますので、充分注意をしてください。

１）ホッパ内、散布部の水洗いは避けてください。
防水性重視の仕様にはしていますが、直接、勢いよく水を掛けるのは避けてください。
田植機を洗車する場合は、右図部をビニール袋などで被ってください。





２）育苗箱施用剤の補給／排出に関する**注意**
☆補給前には必ずホッパの排出プラグを止めてください。
☆補給後はホッパのフタを確実に閉めてください。
☆作業終了後は、育苗箱施用剤の固着を予防するため、次の手順で、繰出部まで育苗箱施用剤を確実に排出してください。
①ホッパ内の育苗箱施用剤を排出口から抜く。
②散布機を少し空回しして繰出部の育苗箱施用剤を抜く。
☆ホッパに育苗箱施用剤を入れた状態で路上走行しないでください。
短距離の移動でもホッパ内の育苗箱施用剤は抜いた方が安心です。
※振動で育苗箱施用剤が圧縮されたり、粉化して、詰りや散布不良の原因となる事があります。

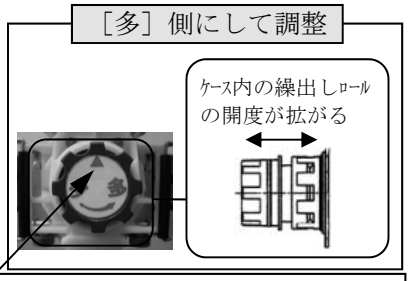


３）エンジンの充電能力に関する**注意**
箱施用剤散布機を使用するとバッテリが消耗しやすいので次の取扱いを守ってください。
①アクセル付き田植機の場合は、アクセルを「作業」の範囲(中速以上)に設定してください。
②施肥仕様の場合は、枕地で苗や肥料の補給などで停止する時は、植付部を上げてください。
(植付部を上げるとブロアが停止し電気消費が少なくなります)
③点検時にはバッテリの容量低下に注意してください。



４）計量作業に関する**注意**
ノブを「多」側へ回す方向で調量してください。
量を少なくする場合も、一度多めに［少］側に戻してから再度、［多］方向に回して調量する。

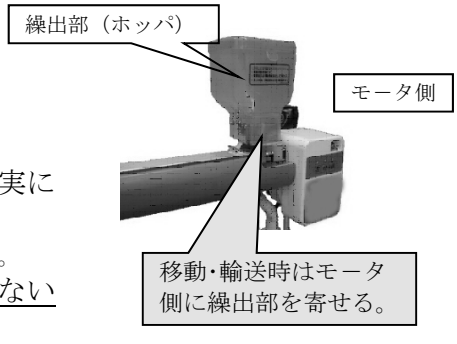
注意 締め込み過ぎると散布機の横スライド時に抵抗が増え非常停止が掛かる可能性があります。



５）雨天時の**注意**
雨天事は、濡れた葉に育苗箱施用剤が付着し床土に散布できない場合がありますので散布状態を確認し、雨が強く付着が多い場合は使用を中止してください。
また育苗箱施用剤が濡れると散布不良の原因となります。補給や排出時にホッパ内や育苗箱施用剤を濡らさないよう注意してください。

６）非常停止制御について
散布機のモータやセンサの動作に異常が生じた場合は、警報を知らせて非常停止が働く制御となっています。不調と処置のページ（Ｐ１４）を良くお読みください。
※チェーンの張りなどＰ１５の内容を定期点検すれば、非常停止しにくくなります。

７）移動・輸送時の**注意**
故障・損傷の原因ともなりますので､移動・輸送時は次の取扱いを守ってください。
①移動・輸送する前に、繰出部（ホッパ）をモータ側に寄せてください。
②育苗箱施用剤はモータ側全て取り出しホッパのフタを確実に閉めてください。
③散布機の各部品へのロープ掛けは絶対に避けてください。
④散布機は苗載せ台の幅より長いので、移動中は引っ掛けないように注意してください。



箱施用剤散布機の特長

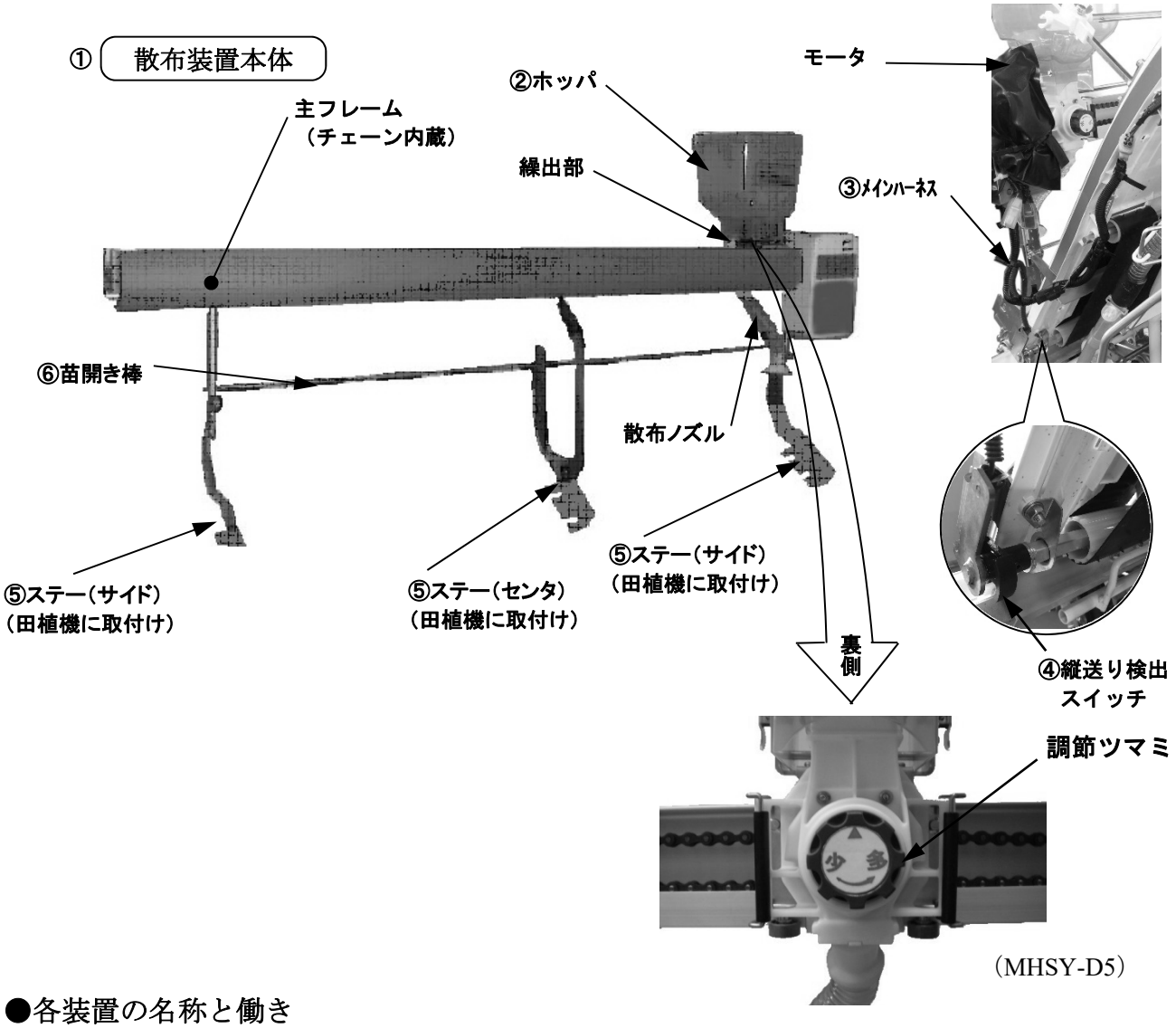
1）田植えと同時に苗に散布できるので、忙しい農繁期の省力化がはかれます。
2）大容量ホッパで能率良く作業できます。作業後の残量排出も楽に出来ます。
3）高精度の散布であり、また実際に使う苗にだけ散布するので、育苗箱施用剤の使用量を最低限に出来て経済的です。
4）繰出し量が調整式ですから、幅広い育苗箱施用剤に適応出来ます。

採用型式と主要諸元

条　　数	型　式　名	適　応　機　種（田　植　機）
４条	ＨＳＹ４０Ｌ	ＬＤ４
５条	ＭＨＳＹ-Ｄ５	ＬＤ５

	４条	５条
育苗箱施用剤の種類	水稲育苗箱施用剤	
散布方法	横スライド散布方式（縦送り連動）	
繰出し方式	溝付きロール方式	
繰出し調整方式	ロール横幅スライド式	
動　　力	バッテリ電源によるモータ駆動	
ホッパ容量	3.5　ℓ	
各条停止	切り替えスイッチ方式	
全高Ｘ縦幅（ｍｍ）	740　Ｘ　260	
横　　幅（ｍｍ）	1460	1760
質　　量（ｋｇ）	12	13

各部の名称



（MHSY-D5）

●各装置の名称と働き

	名　　称	装置の構成と働き
①	散布装置本体	「繰出部」「散布ノズル」「駆動モータ・チェーン」「主フレーム」等をアッセンブリしています。 「繰出部」の前後面に「調節ツマミ」があります。
②	ホッパ	育苗箱施用剤を補給する容器です。3.5L 入ります。
③	メインハーネス	散布装置を田植機本体と接続します。
④	縦送り検出スイッチ	苗のせ台の縦送りベルトの回転を検出します。
⑤	取付ステー	散布機本体を苗載台に取付けるステーです。
⑥	苗開き棒	散布時に苗を上下に開き育苗箱施用剤を床土に散布するための棒です。

●付属品

1）計量カップ……散布量の確認時に使います。

作業前の準備Ⅰ（基本動作の確認）

１．田植機へ『箱施用剤散布機』を組付ける。

取付要領書を参照して取付けてください。

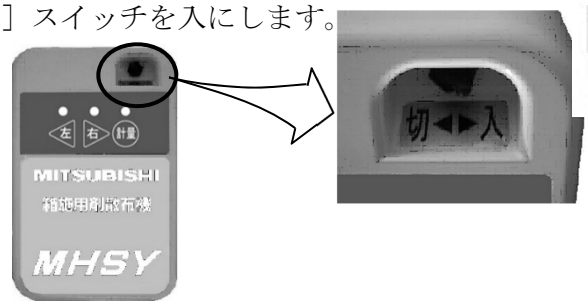


２．散布機のスライド動作を確認する。

「手動操作」にて、基本動作が正常か確認します。

１） 田植機のキースイッチをＯＮにします。

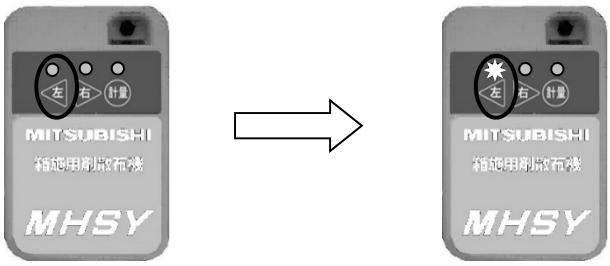
２） ［入／切］スイッチを入にします。



３） 下記操作にてスライド動作を確認します。

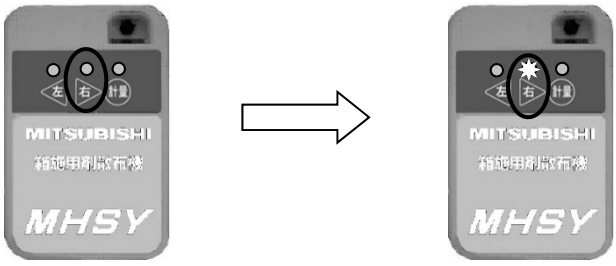
●［左スライド動作］を確認するには・・・・・・・・・

［左］ボタンを押すと［左］ボタン上のランプが点灯し、左スライド動作を開始します。
左端に来ると自動的に停止し、ランプが消灯します。



●［右スライド動作］を確認するには・・・・・・・・・

［右］ボタンを押すと［右］ボタン上のランプが点灯し、右スライド動作を開始します。
右端に来ると自動的に停止し、ランプが消灯します。



●ホッパを任意の位置で停止させるには・・・・・・・・・

［右］［左］ボタンにてスライド動作を開始し、スライド途中に［右］［左］ボタンを押すとランプが消灯し一時停止します。

※再び［右］［左］ボタンを押すとスライドを開始します。

補足

「手動操作」によるスライド動作は、間欠スライド動作をしません。
間欠スライド動作は、田植機本体の植付部との連動動作時のみ作動します。

作業前の準備Ⅱ（散布量の調整）

重要

☆計量する前、安全のために駐車ブレーキ「ＯＮ」、各操作レバー「ＯＦＦ」を確実に確認したうえで作業してください。

☆適正な散布量は、育苗箱施用剤の袋に基準値が記載されています。

※50ｇ／「苗１箱」が主流です。育苗箱施用剤に「苗１箱」分の計量箱が付いている場合もあります。

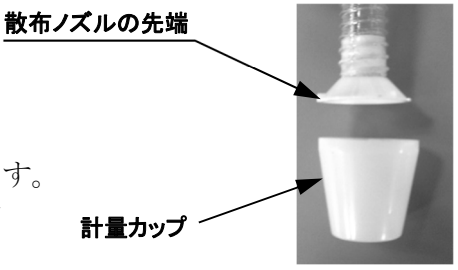
☆繰出量の設定は育苗箱施用剤の種類により大幅に変わります。使用前には必ず計量を行い、適正な繰出量を設定してください。

１．計量の準備をする。

１）付属の計量カップを散布ノズルの先端に取付けます。
※ホースロとカップの切欠きを合わせて差し込んでからカップをねじり、抜け止めをします。

２）ホッパのフタを明けて、育苗箱施用剤を入れフタを閉じます。

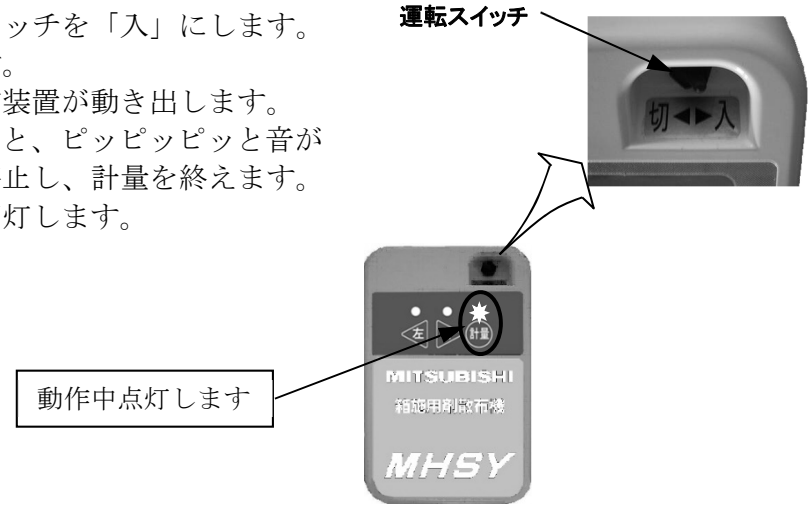
３）田植機のキースイッチを「ＯＮ」にして、エンジンを始動させます。



２．計量を開始する。

１）セイギョカバー正面の運転スイッチを「入」にします。

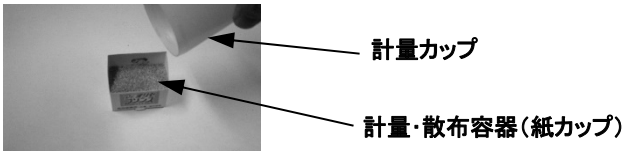
２）『計量』ボタンを一度押します。
①計量ランプが点滅して、散布装置が動き出します。
②散布装置が３条分１往復すると、ピッピッピッと音が鳴って自動的にスライドが停止し、計量を終えます。それと同時に計量ランプが消灯します。

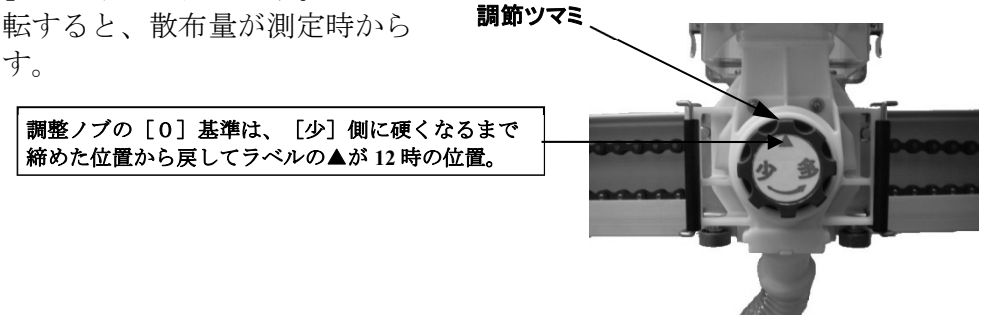


３．散布量の検証と調節の方法

１）計量カップを外し、溜まっている量が適正か検証してください。
※育苗箱施用剤に付属されている計量箱に移して検証するか、重さを測定してください。

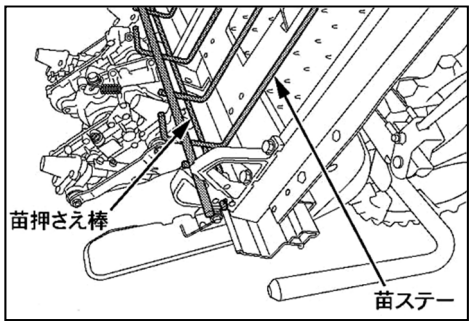
２）散布量を変更する時は、繰出部の調節ツマミをラベルの［多］［少］を参照して回します。
※調節ツマミを１回転すると、散布量が測定時から約２０％変わります。





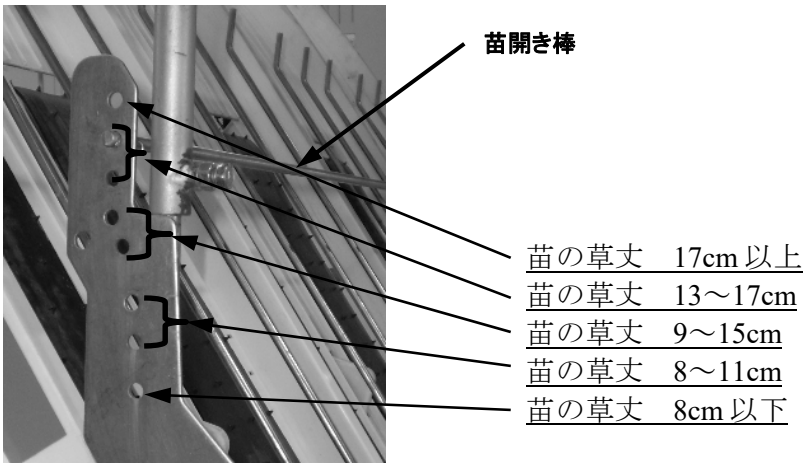
散布（田植同時）作業の手順

１．苗のせ台に苗を補給します。



１）苗の長さ（床土から上の長さ）にあわせて、苗開き棒の位置を調整します。

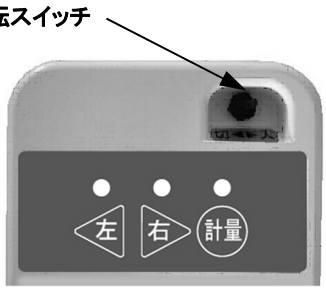
重要 ☆下図の位置は、あくまで参考値です。
散布口の下の床土が見えるくらい開いて苗を押さえ過ぎない位置が基準です。
☆併せて苗ステーと苗のせ台下側の苗押さえ棒も適正な押さえ状態か確認してください。
（田植機本体の取扱説明書参照）



２）苗を全条補給します。

３）初回補給時は、苗の区分けされた位置より下にある苗に育苗箱施用剤を散布してください。

２．田植作業を開始する。



１）セイギョカバー正面の運転スイッチを「入」にします。
「入」の状態で植付部を駆動すると自動的に次の動作で散布します。
「切」の状態では散布装置は動作しません。

２）散布機作動
①苗のせ台のベルトが数回縦送りすると散布装置がスライドして散布。
②散布装置が苗のせ台の反対側まで来ると自動的に停止。
以後は、この①②の繰り返しです。



補足

・散布時には、散布している事を知らせる「ピー」という連続音が鳴ります。
・念のため何回か散布装置が作動した後、散布状態を確認してください。
・散布量が苗の状態によりバラツクことがあります。始めの作業時に育苗箱施用剤の使用量と苗の使用量を確認してください。（基準量は通常、苗 20 枚で育苗箱施用剤 1 kg）

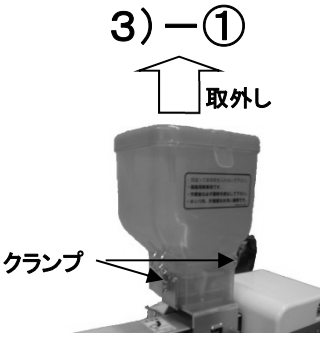
３．田植終了後の作業

１）残り苗は苗開き棒を外して取り出します。
苗開き棒（左右）はスナップピンを外し､取り外してください。
更に､苗ステーを外すと楽に苗を取り出せます。

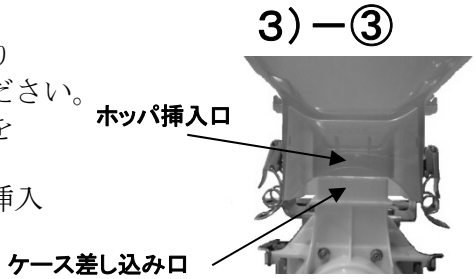
２）残った苗を圃場に入れる時は、育苗箱施用剤を計量カップを使用し、手で散布してください。

重要

育苗箱施用剤を散布しない残り苗は病気や害虫発生の原因になる場合があります。



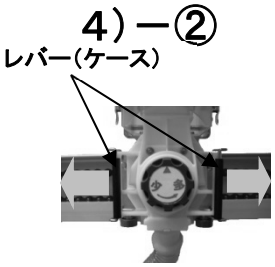
３）ホッパ、ケース内に残った育苗箱施用剤は次の手順で全て排出してください。
①クランプ（２ヶ所）を外し、ホッパを上方向に取り外した後、ホッパ内の育苗箱施用剤を排出してください。
②散布機を少し空回ししてケース内の育苗箱施用剤を排出してください。
③ホッパの取付けは、ケース差し込み口をホッパに挿入した後、クランプにて固定してください。



重要

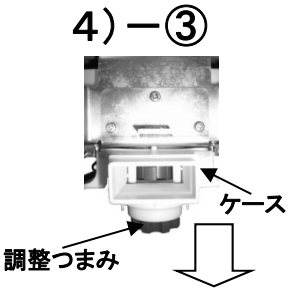
完全に排出しないと、繰出部のロールに育苗箱施用剤が固着して次回使用時の散布不良につながります。

４）ケース内部の清掃
①クランプ（２ヶ所）を外し、ホッパを取外してください。



注意

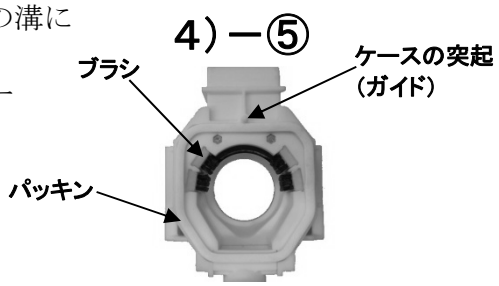
ホッパを取外した状態でないとケースの取付け取外しは行えません。
②レバー（ケース）（２ヶ所）を外側に外します。
③調整つまみの中央部を押しながらケースを矢印の方向に取外してください。
④汚れ、固着等が見られる場合は清掃を行ってください。

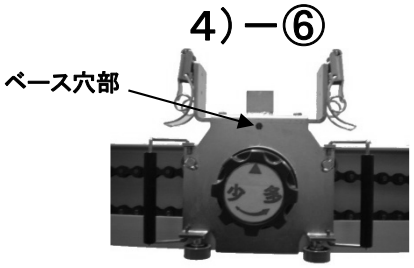


重要

ロールに育苗箱施用剤の固着が見られる場合は、無理に剝さず蒸しタオル等にて薬剤を柔らかくしてから取り除いてください。

⑤ケースの取付けはブラシ（４個）とパッキンがケースの溝に確実に入っていることを確認してください。
⑥ケースの突起をベースの穴に確実に挿入した後、レバー（ケース）にて固定してください。





植付部の左右バランスの点検・調整要領

☆箱施用剤散布機を装着すると植付部のバランスが右下がりになる時があります。
　その場合は、次の手順で植付部のバランスの点検・調整をしてください。

特に除草剤散布機など、他のアタッチメントと
共着する場合は点検して戴いた方が安心です。

左右バランス調整方法

①機械を停止した状態で植付爪を駆動。
　※初回苗補給時に植付爪を空回しして
　　苗載台を横送りする方法です。
②苗載台が最左、最右に来た時の、傾き
　を確認してください。
③苗載台の傾きが大きい時はバネの掛け穴
　位置で差を確認。

モンロ仕様ではモンロの手動ダイヤル
で微調整できます。

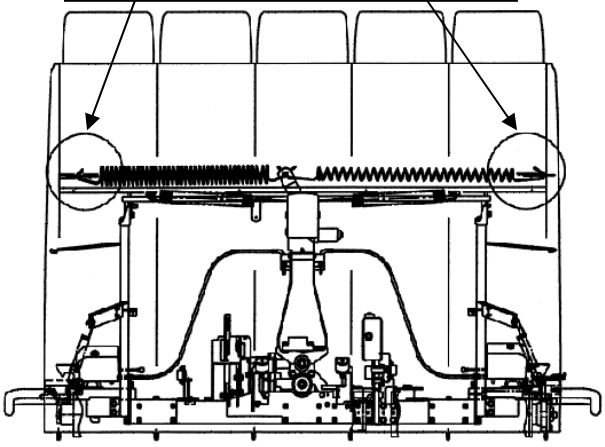


図 LD5 の事例

田植機の機種によって、少し植付部の構成が異なるので、点検・調整の要領が解りにくい時は、
販売店に御確認ください。

【重要】使用する薬剤による注意事項

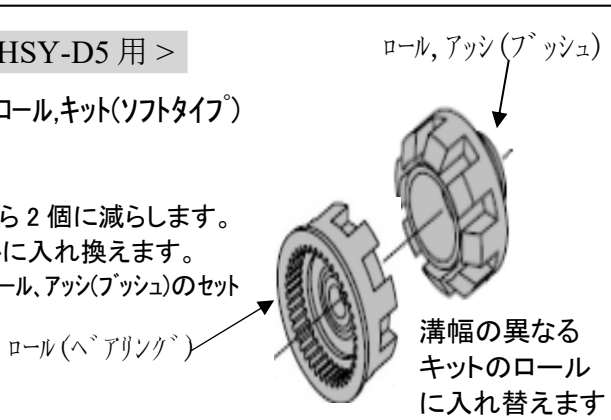
使用する薬剤によっては、早期にロールへの薬剤付着が発生する場合があります。
特にロールに付着しやすい薬剤(※)を使用する場合は、
下記オプション品を使用してください。

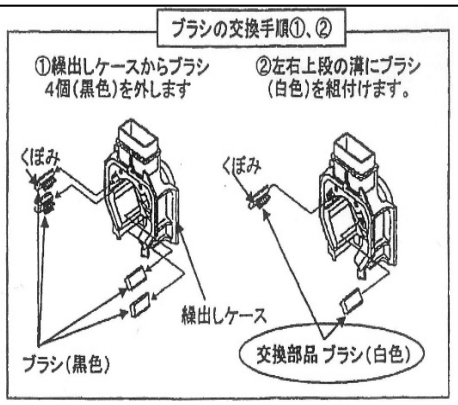
※ﾛｰﾙ, ｷｯﾄ(ｿﾌﾄﾀｲﾌﾟ)の部品構成は次の通りです。

＜HSY40L・MHSY-D5 用＞

95720000340：ロール,キット(ソフトタイプ)
・・・１セット/台

①ブラシの数を 4 個から 2 個に減らします。
②ロールを、新しいロールに入れ換えます。
※ロール(ベアリング)とロール、アッシ(ブッシュ)のセット





〈アッシ〉

95720000340	ロール,キット(ソフトタイプ)

〈ロール,キット(ソフトタイプ)の構成〉

95720000250	ロール,アッシ(テフロン)
95720000270	ブラシ,アッシ(ソフトタイプ)

※ソフトブラシ(白色)2個のセット販売です。

〈ロール,アッシ(テフロン)の構成〉

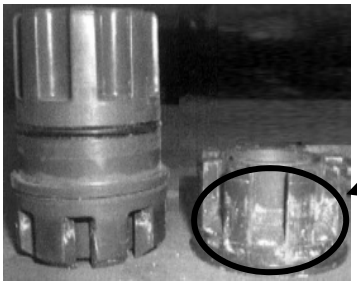
95720000210	ロール(ベアリング)
95720000260	ロール,アッシ(ブッシュ)

「補足」ブラシの摩耗やロールのテフロンが剥がれたときは、交換してください。
ロールは単品部品での交換も可能です。

『組替えによる注意点』
普通の薬剤には、ソフトブラシは使用しないでください。

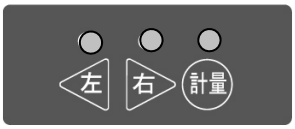
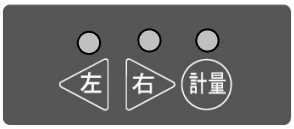
『取扱いポイント・・点検・洗浄』
※20kg 以上繰出しごとに、点検・清掃を実施してください。
※ロールを清掃する際は、ロール表面のテフロンが剥げないように、40℃～50℃程度の
お湯に 5 分以上つけ、柔らかい部材（木材等）を用いてロールに付着した薬剤を
除去してください。（強く擦ると、ロールのテフロンが剥がれるため注意してください。）





不調と処置

・動かなくなった場合下記のことが考えられます。

原　　因	処　　置	パネル警報表示
・バッテリの電圧低下や、散布装置のスライド抵抗の増加により、横スライドが30秒で端まで到達しない状態になった事により非常停止しています。	・バッテリの電圧低下の場合は、充電やバッテリ交換をしてください。 ・スライドの動きが遅い場合は、スライドへの泥の付着やグリス切れ等を確認し、清掃してください。 関連部品が傷んでいる場合は交換してください。	［エラー1発生］ 
・モータが動かない原因で非常停止しています。	・モータがロックした場合は、下記項目を確認、解消してください。 ※繰出部、スライド部への異物の噛み込み ※繰出しロールへの薬剤の固着 ※スライドチェーンの張り状態 上記メンテナンスで直らない時は販売店に点検を依頼してください。	［エラー2発生］ 
・フレーム両端の停止位置を検出するリミットスイッチの異常により非常停止しています。	・リミットスイッチが損傷や位置ずれ等を起こし、作動が不安定になっている可能性があります。 販売店に点検を依頼してください。	［エラー3発生］ 
・電源が箱施用剤散布機に来ていない。 （［右］［左］ボタンを押しても動かない）	・ヒューズが切れている可能性があります。 P16 を参照して点検、交換してください。 ・ヒューズが切れていない場合はハーネスの接触が不安定になっている可能性があります。 販売店に点検を依頼してください。	［警報表示なし］ 
・縦送りセンサの異常により田植機本体の植付部との連動動作ができない。 （［右］［左］ボタンを押せば、動く）	・センサが損傷や位置ずれ等を起こし、作動が不安定になっている可能性があります。 販売店に点検を依頼してください。	［警報表示なし］ 

【備考】

1）　作業中にセンサ・モータ類の動作状態に異常を感知した時に故障を防止するための
　　エラー警報を装備しています。
　　報知ブザー音は「ピー・ピッ・ピー・ピッ……」の反復です。

2）　警報が作動した時は、必ず、計量、及び散布作業を中断し、エラー表示の内容に従い
　　問題を解消してから作業を再開してください。
　　もし問題が解消しない時は購入された販売店で点検を受けてください。

3）　警報のリセット方法
　　田植機本体のキースイッチを停止にするとリセットされます。
　　※問題が解決されていないのに、何度もリセットして動かすのは避けてください。

定期点検項目

注意 各部を点検する時は、安全上、必ずエンジンを先に停止してください。

作業前点検項目

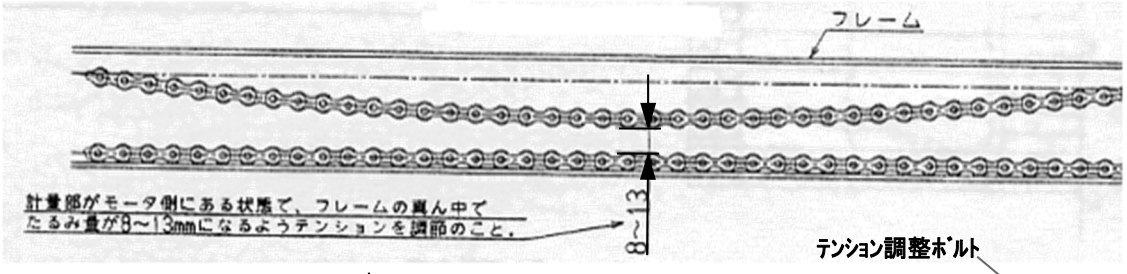
1．田植機の点検
- ●田植機の取扱説明書に従って点検してください。
- ●特にバッテリが弱っている場合は散布時に非常停止が働く原因となりますから必ず充電してから作業を始めてください。

重要 ※バッテリが弱っていると散布機は満足な動きをしません。

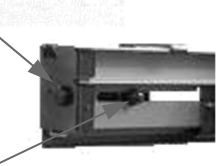
2．散布機の点検
- ●散布機各部や、田植機との固定部に緩みや変形等が発生していないか確認をしてください。
- ●田植機のキースイッチをＯＮにすると、散布機の操作ボックスから「ピ」と音がするか確認してください。
- ●ホッパ内、繰出部、散布ノズルが濡れていないか点検してください。
  もし、濡れている場合は充分に乾燥させてください。
  また、万一ホッパ内や繰出部に前回使用時の育苗箱施用剤が残っていた時は全て取出し繰出部に残っている育苗箱施用剤もきれいに取除いてください。

毎日の使用後の手入れ

- ●ホッパ内、及び繰出部に残った育苗箱施用剤は、毎日完全に排出してください。
  ※ホッパ内の育苗箱施用剤を排出後、計量動作で繰出部まで確実に排出してください。
- ●洗車時は、ホッパ内部に水が入らないよう充分注意し、また各部品に高圧洗浄機の水が当たらないように注意してください。
- ●ホッパ内、繰出部、散布ノズルが濡れていないか点検してください。
  もし、濡れている場合は充分に乾燥させてください。
- ●散布機の各部に泥が付着している時はきれいに拭き取ってください。
- ●チェーンは、ホッパをモータ側に寄せ、たるみを下図の範囲に調整してください。



［張り代の調整基準］
中央部でチェーンとチェーンの間が８～１３mm
※フレーム左側のテンション調節ボルトで調整する。
（固定用ナットを緩めて調整）

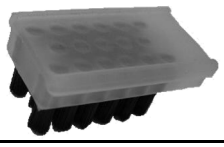


長期格納時

- ●毎日の手入れと同じ項目を行い、充分乾燥させてから保管してください。
- ●チェーン部のグリスが減っている時は、塗布にて補充してください。また、各部に錆や傷が発生している時は、修繕して腐食を防ぐよう塗装してください。
- ●田植機の取扱説明書も良く読み、安全注意を守った上で田植機本体も丁寧に点検し保管してください。

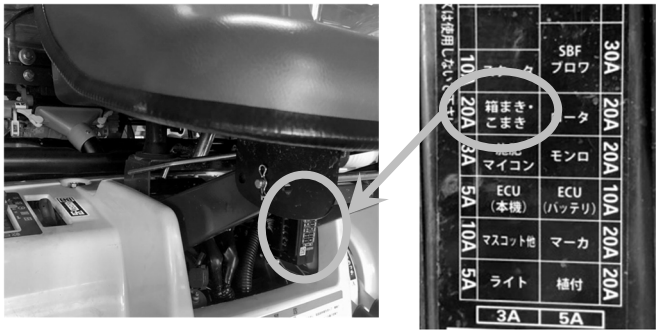
主な消耗部品一覧表

消耗部品を下表に示しますので、常に機械を点検して、部品に亀裂、ひび割れ、磨耗などの損傷が認められる場合は、販売店でお買い求めの上、交換してください。

品　番	品　名	部 品 形 状
95720000220	ブラシ	
99830000070	プレート（ガイド）	
95720000330	ロール（ツメ）アッシ	
95720000310	ロール（ベアリング）	
95720000320	ローラ（ベース）	
99830000970 95720000230	レール（チェーン）	

ﾋｭｰｽﾞの位置

LD4, LD5



座席下のｵｰﾄﾋｭｰｽﾞ（20A）

付属部品の交換要領

交換用の付属部品を下記に示します。清掃、点検時に摩耗が見られる場合は交換してください。

補足

ご使用の薬剤により交換時期は異なりますが、約 200 時間ご使用が交換の目安です。

品　番	品　名	部 品 形 状
95720000330	ロール（ツメ）アッシ	
95720000310	ロール（ベアリング）	

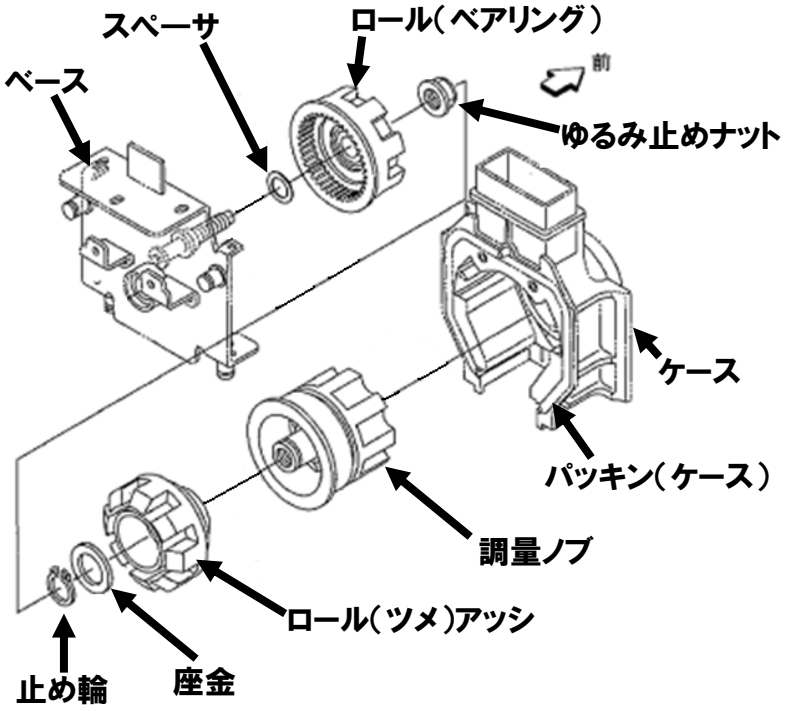
交換手順

1．ホッパ、ケースを取外してください。
　（Ｐ１１：３．『田植終了後の作業』を参照ください。）
2．調量ノブをゆるめて外す
　＊ロール（ツメ）アッシは調量ノブに止め輪で固定されているので一体で外れます。
3．止め輪を外してロール（ツメ）アッシを、調量ノブから分離します。
4．ゆるみ止めナットを外し、ロール（ベアリング）をベースから外します。
5．交換用ロール（ベアリング）をゆるみ止めナットで固定します。

重要

ゆるみ止めナットは、奥まで締めた後で、1/4 回転ぐらいゆるめてください。
締め過ぎた状態では、回転が重くなり繰出部スライド不良が発生します。

6．交換用のロール（ツメ）アッシを調量ノブに入れてから座金と止め輪で固定します。
7．ロール（ベアリング）にロール（ツメ）アッシをを合わせ、調量ノブを元通り締めこみます。
8．パッキン（ケース）がケースの溝に確実に組付けられていることを確認した後、ケースを本体に装着してください。



No. 9 5 7 2 0 0 0 0 2 0 1

品番　4F525-94812